

平成28年3月期 決算説明会

平成28年5月13日



大林組

免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

平成28年3月期 決算説明



時をつくる ところで創る

大林組

1 平成27年度決算の概要（前期実績比較）

(1) 個別決算実績

(2) 連結決算実績

決算短信の34ページ「ハイライト情報」の上段の表をご覧ください。

1 平成27年度決算の概要（前期実績比較）

（3）個別受注高

決算短信の34ページ「ハイライト情報」の下から2つ目の表をご覧ください。

1 平成27年度決算の概要（前期実績比較）

（4）有利子負債残高

決算短信の34ページ「ハイライト情報」の最下段の表をご覧ください。

2 平成27年度決算 セグメント別内訳（前期実績比較）

- (1) 個別売上高
- (2) 個別売上総利益

決算短信の38ページ下段の表をご覧ください。

業績見通しについて (平成29年3月期)

時をつくる ころで創る



OBAYASHI

大林組

事業環境

国内建設投資(名目)2016年度見通し

名目建設投資 **49.6兆円**

民間建設投資 **29.1兆円** うち民間非住宅建築投資 **9.0兆円**

民間土木投資 **4.7兆円**

政府建設投資 **20.5兆円**

民間非住宅
建設投資
13.6兆円
0.4%増

(単位:兆円)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015			2016		
	(実績)	(実績)	(実績)	(見込み)	(見込み)	(見通し)	前年度比	増減率	(見通し)	前年度比	増減率
名目建設投資	41.93	43.29	45.29	51.29	51.30	50.01	△1.29	△2.5%	49.61	△0.40	△0.8%
民間建設投資	23.95	24.68	25.57	28.74	27.80	28.54	0.74	2.7%	29.12	0.58	2.0%
民間住宅投資	12.98	13.38	14.09	15.79	14.56	14.96	0.40	2.7%	15.48	0.52	3.5%
民間非住宅建築	6.91	6.96	7.24	8.42	8.63	8.96	0.33	3.8%	8.99	0.03	0.3%
民間土木投資	4.06	4.34	4.24	4.53	4.61	4.62	0.01	0.2%	4.65	0.03	0.6%
政府建設投資	17.98	18.61	19.72	22.55	23.50	21.47	△2.03	△8.6%	20.49	△0.98	△4.6%
政府建築投資	2.21	2.14	2.18	2.86	2.67	2.67	-	-	2.54	△0.13	△4.9%
政府土木投資	15.77	16.47	17.54	19.69	20.83	18.80	△2.03	△9.7%	17.95	△0.85	△4.5%

民間非住宅建築の
良好な受注環境が
継続

当社の製造業受注高
(2015年度実績)
前年度比 **+約51%**

電気機械、食品工業
を中心に
製造業の受注が増加

※建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見通し」(2016年4月公表)

2016年度業績見通し(単体)

(単位：億円)

		2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績 A	2016年度 通期見通し B	前年実績 との差異 B - A
工事売上高	建築	9,157	9,586	9,084	10,100	1,015
	土木	2,703	2,679	2,979	3,050	70
	計	11,860	12,265	12,063	13,150	1,086
不動産事業等売上高		225	332	287	150	△137
総売上高		12,086	12,598	12,350	13,300	949
工事総利益	建築	393	421	856	905	48
	土木	167	244	451	350	△101
	計	560	665	1,307	1,255	△52
不動産事業等利益		47	106	63	60	△3
売上総利益		608	772	1,371	1,315	△56
販管費及び一般管理費		581	582	607	630	22
営業利益		27	189	763	685	△78
経常利益		113	311	828	750	△78
当期純利益		76	129	507	570	62

2016年度業績見通し(連結)

(単位：億円)

		2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績 A	2016年度 通期見通し B	前年実績 との差異 B - A
売上高	連結	16,127	17,739	17,778	19,150	1,371
	単体	12,086	12,598	12,350	13,300	949
建設事業売上高		15,210	16,730	16,957	18,400	1,442
国内		80%	76%	76%	75%	—
海外		20%	24%	24%	25%	—
開発事業		516	638	470	445	△25
新領域事業		400	370	236	220	△16
その他				113	85	△28
営業利益 (営業利益率)	連結	319 (2.0%)	483 (2.7%)	1,063 (6.0%)	950 (5.0%)	△113
	単体	27 (0.2%)	189 (1.5%)	763 (6.2%)	685 (5.2%)	△78
国内建設		52%	58%	83%	83%	—
国内建設以外 (海外建設、開発、新規事業)		48%	42%	17%	17%	—
経常利益		401	599	1,112	985	△127
当期純利益		216	286	634	630	△4
ROE		5.4%	6.2%	12.4%	11.7%*	—

*2016年度ROEは参考値：2016年度末自己資本は前年度末自己資本に配当後剰余金のみ加算して算出

「配当について」

年間配当金 **18円/株**（8円増配、連結配当性向20.4%）
 （2015年度）

- ・中間配当金として5円配当済みのため、期末配当金は13円
- ・本年6月に開催予定の第112回定時株主総会の決議をもって正式に決定、実施する予定

（単位：億円）

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 見通し
連結 業績	売上高	11,318	12,457	14,483	16,127	17,739	17,778	19,150
	営業利益	231	311	351	319	483	1,063	950
	経常利益	222	352	446	401	599	1,112	985
	当期純利益	154	51	131	216	286	634	630
	1株あたり当期純利益（円）	21.46	7.16	18.37	30.11	39.96	88.36	87.77
配 当	年間配当金（円）	8	8	8	8	10	18	18
	連結配当性向（%）	37.3	111.7	43.5	26.6	25.0	20.4	20.5

【配当政策】

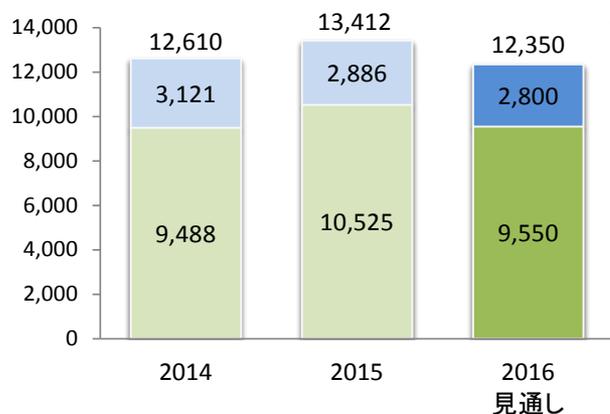
当社は、長期にわたり安定した配当を維持することを第一に、財務体質の一層の強化や将来に備えた技術開発、設備投資等を図るための内部留保の充実を勘案のうえ、業績に応じた利益還元を行うことを基本方針としている。

今後もこの方針に則って安定配当を優先しつつ、連結配当性向20%～30%の範囲を当面の目安として、配当による利益還元に努めていく。

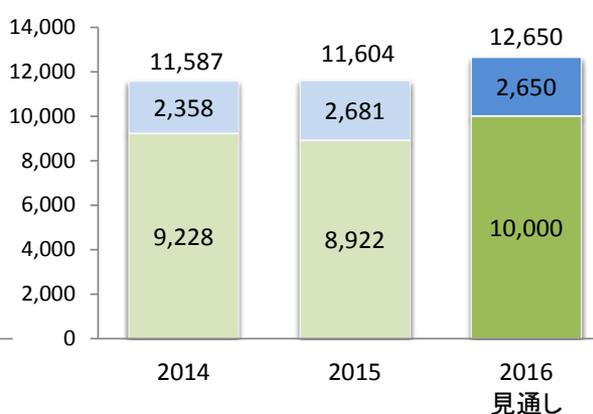
国内建設

- ・ 良好な事業環境が継続。高い利益水準を確保できる見通し
- ・ 引き続き生産力を考慮し、採算性を重視した受注活動を展開
- ・ 技能労働者の育成支援、生産性の向上により生産力の確保を図る

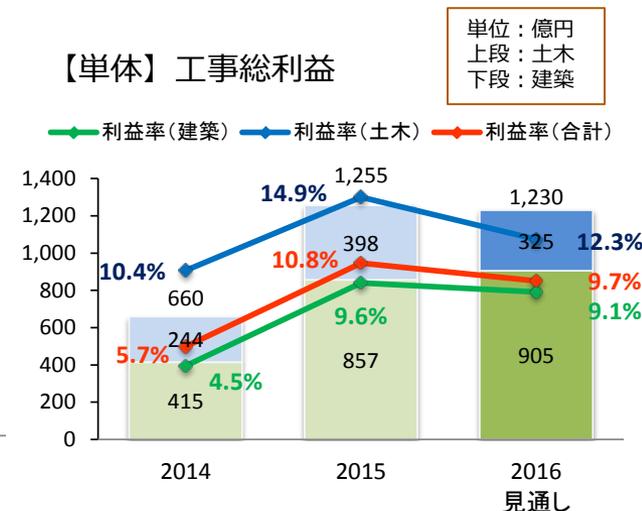
【単体】工事受注高



【単体】工事売上高



【単体】工事総利益



◇技能労働者の育成支援

- －スーパー職長制度の拡充。新たにジュニアクラス（40歳未満）を設置
2016年度の認定者は330人に
- －スーパーオペレーター制度の新設
優秀なクレーンオペレーターを認定し手当を上積み
- －大林組林友会教育訓練校に新たに中堅技能者コースを設置
受け入れ対象者を拡大

【スーパー職長認定者数】



技術

◇生産性向上を実現する技術の開発

- 企画・設計・生産から維持管理までBIMの一貫利用に向け「スマートBIMクラウド」「BIMobile®」など、新たな要素技術の開発
- 「鉄道ラーメン高架橋のフルプレキャスト工法」開発
LRV工法を応用し、省力化・短工期化を実現
- 「外壁検査システム」「低床式AGV（無人搬送車）」
ICTや自動化技術の活用による生産性向上



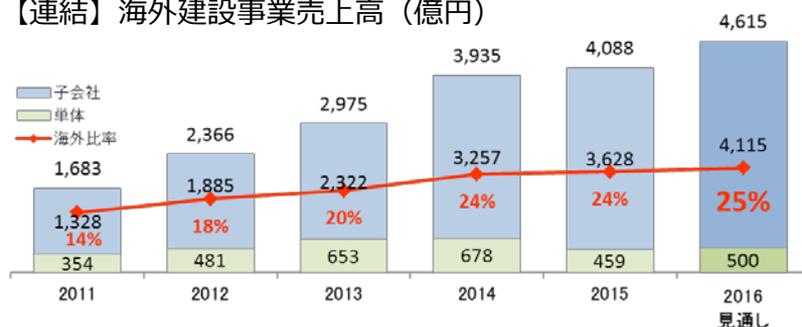
BIMobile：タブレット端末でBIMモデルを一貫活用
業務の効率化・高度化を実現

海外建設

◇建設事業に占める海外売上高比率25%に

- 北米・東南アジアを中心に順調に拡大
- 採算・リスク管理を徹底し収益性の向上を図る

【連結】海外建設事業売上高（億円）



【カチプール・メグナ・ Gumティ 第2橋建設工事
および既存橋改修事業】



施工場所：バングラディッシュ国 ダッカ近郊
JV構成：大林組、清水建設、JFEエンジニアリング、IHIインフラシステム

開 発

◇オフィス賃貸事業への更なる投資による 安定的な収益基盤の強化

- 東京都心部を中心とした新規投資の推進
 - ・「oak meguro」(2016年3月完成)
- 保有不動産の「競争力」「収益性」の強化
 - ・既存ビルのリニューアル・BCP対応の実施

◇賃貸ポートフォリオの多様化

- 賃貸住宅や物流施設の新規開発を推進
 - ・小牧物流センター (2015年9月完成)



oak meguro

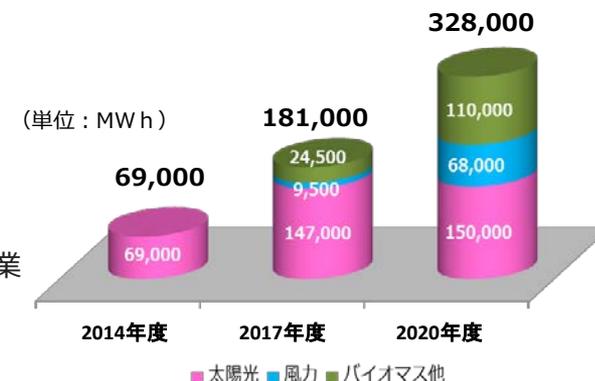
所在地：東京都品川区上大崎
規模：地上10階 地下2階
延床面積：23,100.04㎡

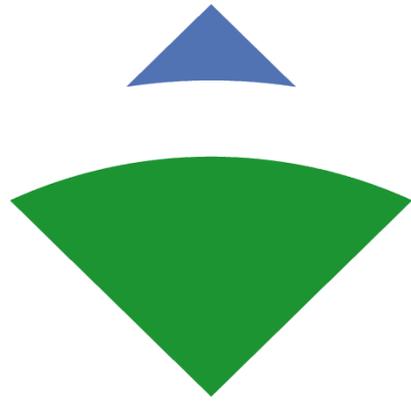
新領域

◇新たな再生可能エネルギー発電事業を 中心とする新領域事業の拡充

- 計画案件の着実な進捗
 - ・木質バイオマス発電（山梨県大月市）2018年度開業予定
 - ・陸上風力発電（秋田県三種町）2017年度開業予定
 - ・太陽光発電 決定済案件128MW（開業済分83MW含む）2017年度に全て開業
- 秋田県沖洋上風力発電の環境アセスメントを開始
- 環境制御技術など保有技術やノウハウを活用し農業事業に参入

【再生可能エネルギー年間発電量の推移】





OBAYASHI